

第56回 東海北陸保育研究大会

愛知大会

AICHI / 2015



すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ
社会の実現をめざして



開催
日時

平成27年 **7月14日(火)・15日(水)**

会場

名古屋国際会議場

[全体会場 センチュリーホール / 分科会場 同会議場各会議室]

主催 愛知県・名古屋市

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会・社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会・東海北陸ブロック保育協議会

後援 厚生労働省・社会福祉法人全国社会福祉協議会・全国保育協議会

富山県・石川県・福井県・岐阜県・三重県

社会福祉法人富山県社会福祉協議会・社会福祉法人石川県社会福祉協議会・社会福祉法人福井県社会福祉協議会

社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会・社会福祉法人三重県社会福祉協議会

第56回東海北陸保育研究大会「愛知大会」日程

平成27年7月14日(火)【1日目】

11:30～12:45	運営委員会Ⅰ	[2号館 221]
12:45～13:00	オープニングセレモニー 「せかいのひとつ～みんなともだち～」昭和保育園 保育の歌斉唱「花のおさなご」愛知県保育士会	
13:00～13:30	大会式典	[センチュリーホール]
	開会の言葉	愛知県社会福祉協議会保育部会 部会長 伊東 世光
	児童憲章朗読	愛知県保育士会 会長 久野 裕美子
	主催者挨拶	愛知県知事 大村 秀章
		愛知県社会福祉協議会 会長 大沢 勝
	歓迎の言葉	名古屋市長 河村 たかし
	祝辞	名古屋市議会 議長 藤沢 ただまさ
		全国保育協議会 会長 万田 康
	来賓紹介	全国保育士会 会長 上村 初美
	祝電披露	(愛知県議会議長)
	大会宣言	石川県社会福祉協議会保育部会保育士会 会長 山岸 美恵子
13:30～14:00	基調報告	全国保育協議会 会長 万田 康
14:00～14:30	研究発表	「生活文化の違いの中で地域に根差した子育て支援 ～こども園として出来ることとは～」 【発表者】愛知県豊田市 社会福祉法人 清心会 東保見こども園
14:30～16:00	記念講演	「メシが食える大人」に育てるための保育 【講師】花まる学習会 代表 高濱 正伸 氏
16:00～16:10	全体会閉会式	
	次期開催挨拶	石川県社会福祉協議会保育部会 部会長 前田 武司
	閉会の言葉	愛知県社会福祉協議会保育部会 副部会長 中島 章裕
16:30～17:15	分科会打合せ	[2号館 224号室]
17:30～19:00	運営委員会Ⅱ	[パステル]

平成27年7月15日(水)【2日目】

9:00～9:30	分科会受付	[各会場]
9:30～12:30	分科会討議	[各会場]

第7分科会 保育の社会化にむけて ～保育の営みをいかに社会に発信するか～

「子育てに優しい社会につながる保育活動のあり方を求めて」

愛知県豊橋市 幼保連携型認定こども園 明照保育園 年長児指導保育教諭 中島真人

1 園の概要

豊橋市の西方に位置する本園は、昭和28年設立当時は農漁村でありましたが、三河港の開港に伴う工業の進出、道路の整備により宅地化された部分が増え、三世帯同居と核家族が混在する中、かつてと比べると人口は減少傾向にあります。小、中、高校が近辺にあり、授業や夏休み等での交流も盛んに行われています。今年度より、幼保連携型の認定こども園となり、「心身ともにたくましく 思いやりのある子ども」という教育・保育目標のもと、6月現在で253名（5歳児57名、4歳児55名、3歳児56名、2歳児48名、1歳児33名、0歳児4名）が在籍しています。さらに、卒園後の保護者の就労支援及び児童の遊び場の確保や仲間づくりの一環として園内に1～4年生までの放課後児童クラブ（第一・第二合わせて87名）を併設しています。以上のように、こども園、児童クラブとして、入園前の親子支援に始まり、卒園後も子どもだけでなく地域の保護者との関わりは続き、地域の中の子どもをみんなで守り育てていこうという基盤がつけられています。

そこで今回、「保育の社会化」というテーマについて考えるにあたり、これまで、子ども達の発達や興味にふさわしい活動として行ってきた保育内容の視点を変えて、社会に向けての発信と思われる年長児の活動を取り上げました。

2 食育活動の実践例

スーパーへ買い物に行く

(1) 『調味体験』

まずは、調味料の買い出しから始まりました。グループごとに決めた調味料を近所のスーパーに実際に買い物に出掛けました。スーパーには、地元のお客さんもたくさん来ており、挨拶を交わしたり、何をしに来たのかと声を掛けてくださったり、お客さんや店員さんと触れ合うことができました。その折に、園で行っている子育て支援・園庭開放の案内を掲示して頂きたい旨を伝えると快く了承してくださいました。

ホームセンターへ買い物に行く ハウスで収穫体験をする

(2) 『野菜の栽培』

園では、年少、年中、年長とそれぞれの学年で夏野菜をプランタで栽培して収穫し、調理をするという活動を毎年行っています。種や苗を購入しに行くのは年長児の役割になっており、ホームセンターまで歩いて購入に行きます。上記の調味体験の時と同様に、園児が買い物をしている姿を見かけるとお客さんや店員さんが寄ってきて、積極的に声をかけてくれます。また、登園時や降園時に園で育てている野菜を保護者と一緒に観察し、日々の変化を楽しんでいる様子も伺えました。保護者の中には農家の方もおり、ハウスで作っている「いちご」や「トマト」の収穫の体験をしてみませんか？とお誘いを受け、「トマト狩り」「いちご狩り」に出かけ、暑いハウスの中を経験したり、たくさん実っているトマトやいちごの様子を観察したり、収穫する楽しさを体験する機会を頂きました。子ども達と保育者が園で育てている野菜の手入れをしていると「こうするといいんだよ。」「ここは、もっとこうだな。」と丁寧に教えてくださる地元の方との交流もありました。

魚市場見学に行く

(3) 『魚屋さんによる解体実演』

園に給食材を仕入れる魚屋さんが毎年1月に「ブリの解体実演」を年中児、年長児に披露してくれます。そこでは、魚屋さんの捌く大きなブリへの興味からイメージがどんどん広がり、「魚屋さんが買いに行く」と教わった魚市場見学に出かけました。魚市場では、気さくな魚屋さんが色々な魚を教えてくれたり、実際に触らせてくれたりと子ども達の目は常にキラキラと輝いていました。そんな子ども達の真っ直ぐな目や言葉、態度に接した魚屋さんや周りの人たちも「こんなものもあるぞ。」「今度は、これをみてみな。」「また、いつでもおいで。」と始めよりも、ぐんと距離が近づき、子ども達に寄り添う姿へと変わっていったように感じました。

その他には、6月の園の行事、フリーマーケットでは地域の方が大勢、買い物に来てくださいます。買い物に来てくださった方が園内の環境や様子、親子で買い物をする子ども達の姿を見たり、触れ合ったりする機会になっています。また、地域の文化祭などに作品を出展することで、園児の作品を多くの方が目にし、子ども達の心や成長を知って頂く機会にもなっていると思います。

3 まとめ

今回、振り返った様々な取り組みは、園児にとっての成果を中心に実践したものでしたが、地域社会からの視点で考えると保育活動そのものが社会にとって、いかに子どもや子育てへの理解を深めるものになっているのかということに気づかされました。

様々な社会の人たちと肌と肌で触れ合い、生の声を交わし合い地域と繋がり合う体験が、子ども達にとっても、社会にとっても重要であり、園として大きな役割であると感じました。そのためには、セキュリティ対策の問題もありますが、園の門戸を社会に対して開き、保育と社会を繋げていく大切さについて、職員全体が共通理解を図り、保育を計画していくことが必要だと思えます。

働く保護者（特に、母親）を取り巻く社会の環境は、依然として厳しい状況があります。園では、子どもの体調不良によりお迎えをお願いすることもあります。回復するまで仕事を休むことになる場合に正社員からパートへ、更には仕事を辞めざるを得ない方もいて、保育園としてもどうしようもない状況があります。

今後の課題であり、可能性の1つとして、例えば、企業への発信と繋がりがあげられます。子どもにとっては、働く大人や仕事への興味を広げ、企業にとっては、子どもや子育て家庭を支援する意識の向上に繋がれることを願います。

その他にも、保育を様々な形で社会に発信し、『子育て家庭に優しい社会づくり』の橋渡しができるように努めていきたいと思えます。